

自給飼料基盤の強化による経営の安定化

～人も牛も健康で明るい農村づくり～

十勝農業改良普及センター十勝東北部支所 地域第二係

1 活動対象及び概要

陸別町南陸別地区（6戸）

2 背景・ねらい

陸別町南陸別地区は酪農が中心で、陸別町の約1/4の生乳生産を担っている。

TMRセンターを活用した給与体系による営農を行っているが、頭数に対しは場面積が不足している。そこで、良質サイレージ確保に向けた活動を行った。

3 活動の経過

植生調査結果より

農業者、関係機関で植生調査を実施し、雑草割合が約50%と高いことを確認！

牧草が約30%と少ない実態が浮き彫りとなる（図1）。

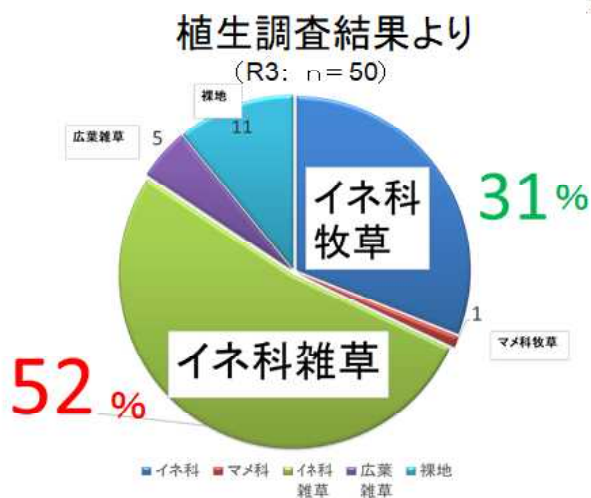


図1 植生調査結果

早期に多草多品種も取り入れ、オーチャードグラス主体の種子組み合わせのほ場23ha、チモシー主体の更新ほ場37ha合計60haの更新を行い、順調に定着している（写真2）。



写真1 調査の様子

草地には多くの雑草があるため、見分け方のOJTを実施した（写真1）。



写真2 多草・多品種活用

4 活動の成果

サイレージ品質の改善

サイレージ調製の良否を確認するためのミニサイロを作り、早期に品質確認できるようにした（写真3・4）。



写真4 ミニサイロ作り

発酵品質確認

刈り取り高さ:10cm以上
切断長・水分・添加剤 確認
ミニサイロを作成、発酵状況確認！



写真3 ミニサイロによる発酵品質確認

2番草サイレージ調製時に初めてギ酸使用を取り入れた。そのため昨年まで発酵品質が不安定であったが、今年度産は発酵品質を評価するスコアが100点になり、牛の食い込みも良好となった。

また、廃棄量を少なくするため取り出し専用グラブの導入を提案し導入した結果、利用できるサイレージが増加した（写真5・6）。



写真5 ギ酸添加スタック



写真6 サイレージグラブ使用

5 今後の対応

- (1) TMR購入代金を下げるために今年度整備した草地台帳を活用し、飼料用とうもろこしの低コスト栽培について農業者及び関係機関と協議支援する。
- (2) 生乳生産抑制下での経営の安定化に向けた具体策の検討。